

政経学部創設二〇周年記念号の刊行を祝して

政経学部長 戸崎 徹

政経学部は昭和三十六年四月に創設されて以来、本年までに二〇年の歴史を重ね、その間実に九、一〇六名の有為な人材を世に送り出している。学部創設二〇周年を迎えたこの機会に、それをアカデミックな形で記念しようとする気運が生じ、その主要なイベントの一つとして、『政経論叢』の記念号が刊行される運びになったことはまことに同慶にたえないところである。

『政経論叢』は、政経学部Ⅰ・Ⅱ部の全教員・学生を主要な構成員とする「政経学会」の研究誌として、昭和三九年六月二六日に第一号が発刊され、爾来回を重ねて今回の記念号は通号第三七・三八号にあたり、その間二六二篇に及ぶ労作がその紙上を飾っている。これらの労作は、学部創設以来、その発展のために鋭意尽力された多数の学究の広範にわたる研究と真摯な思索の結晶体であり、本学のみならず広く学会全体に対して貴重な精神の糧を提供しつけてきたのであって、『政経論叢』の歴史はまさに政経学部のロゴスの歩みの集約的表現であったということができる。

さらにここで特記しておきたいことは、最近における「政経学会」員の研究発表への意欲の増大が著しいことであり、本記念号に政治五篇、経済一四篇、経営六篇の多数の論文その他を収録しえたことはその具体的な証左である。

『政経論叢』の発展に寄与された学究のなかにはすでに物故された方もあり、またすでに本学部を去られた方もみられるが、その残された実績はそれらの方々の精神のエキスとして今もなお燦然とした光芒を放っている。二〇周年記念号の刊行に際して、われわれはこれらの方々を含む多数の先覚者の実績に対して心からの敬意を表するとともに、今後ますます『政経論叢』の内容を充実し、われわれに課された負託に答えるために全幅の努力を傾注する覚悟を新たにするものである。

昭和五六年一二月一五日